2024

Community magazine for YNU members.

地域連携による新たなイノベーション創出を目指し

横浜国立大学が新湘南共創キャンパスを設置

奈川県、藤沢市、鎌倉市、湘南 ヘルスイノベーションパーク、

湘南鎌倉総合病院を中心とした"ヘルスイノベーション最先端拠点形成構想"(※)に本学が参画し、新しいまちづくりと健康長寿社会の実現に加新また教育研究拠点として、"YNU新相として、"YNU新相として、"YNU新相として、"YNU新相として、"を新設した医療のもいるが、最新のもでは、地元自治体、ペヘビリティネでは、地元自治体、やモビ関する研究や、最新のモビリティネがくりの提案など、地域である活動を自る活動をしていきます。

新キャンパス創設を契機として、ヘルスイノベーション最先端拠点形成に向けたヘルステクノロジー実証実験活動や人材育成活動、スタートアップ支援活動等を通じて社会に貢献す

るとともに、相互の発展に資することを目的として2023年12月1日にアイパークインスティチュート株式会社と包括連携協定を締結しました。

また、本学の有する知的資源・人的 資源の活用を通じた地域創生・地域活 性化を目指し、2023年12月8日に藤 沢市と「地域創生・地域活性化に関す る連携協定」を締結しました。

今後、新湘南共創キャンパスを拠点 に、新湘南地域におけるまちづくりを はじめとした、地域住民や企業等が参画できるヘルスケアの取り組みを通じて、村岡地区を起点とした研究開発の推進を視野に入れ、地域創生・地域活性化に係る双方の取組を一層強化することを目指します。

※ヘルスイノベーション最先端拠点形成構想

神奈川県、藤沢市、鎌倉市、湘南ヘルスイノベーションパーク、湘南鎌倉総合病院の5者が連携・協力し、持続可能な地域社会のリーディングエリアの構築と、健康寿命の延伸やヘルスケア分野の産業創出を図る研究を進める取り組み

【YNU 新湘南共創キャンパスでの主な活動内容について】

- 1 湘南アイパーク (アイパークインスティチュート(株) 運営) を 会場としたヘルスケアイベントの開催
- 2 総合学術高等研究院 "次世代ヘルステクノロジー研究センター" における 医工連携研究活動
- 3 実践的教育(副専攻プログラム地域課題実習等)やROUTEによる人材育成活動
- 4 周辺ステークホルダーとの共創活動の拠点
- 5 JST共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) の活動拠点





TOPICS

防災への取り組みを発信する「防災 KOKUDAI」を開催

閣府主催の「防災推進国民大会 (ぼうさいこくたい) 2023」が、9 月17日、18日、本学を会場とし て開催されました。本学では、ぼうさいこく たいに合わせた本学独自企画イベントとして 「防災KOKUDAI」を同時開催しました。

「防災 KOKUDAI」は、本学の防災への 取り組み、本学が有する防災の知見を広く 発信することで、本学の防災の研究・教育 活動を知っていただくとともに社会貢献を 目指す企画です。

当日は厳しい残暑となりましたが、ぼうさいこくたいへの参加者が横浜駅からのシャトルバスで続々と来場し、メインストリートには常に多くの人が行き交っていました。本学企画イベントとして、経営学部講義棟では、横国の防災に関する取り組みを発信する展示や講演のほか、キャンパス内を歩いて防災に役立つまちのアイテムを探



す防災キャンパスツアーや水消火器体験などを開催しました。

また、教育文化ホールでは、日本初の 台風に特化した研究機関として2021年 に設立された台風科学技術研究センター が行っている最新の台風研究を「台風防 災の過去・今・未来」と題してパネルディ スカッション形式で紹介しました。



上:メインストリート 下:台風研究のパネルディスカッション

「横浜国立大学憲章」を改定 新たな理念として 「多様性 | を追加しました

2 004年4月に制定した「横浜国立大学憲章」を、その後の社会変化や現況等を踏まえ、約20年振りに改定することになりました。改定にあたっては、学長補佐の中から多様な分野の教員による「大学憲章検討チーム」を結成し、約半年にわたり検討を重ねてきました。今回の改定により、これまでの4つの理念である「実践性」「先進性」「開放性」「国際性」に加え、新たな理念として「多様性」を追加し、長期目標を定めました。また、これまでの4つの理念に基づく長期目標についても、中長期的な視点に基づき、見直しを行いました。この新たな大学憲章のもとで、多様性を活かした取り組みを実践してまいります。



多様性

人間と学問の多様性を教育・研究の礎として、新しい価値を 共創していくために、性別、障がい、国籍などを超えて、多 様な学生と教職員が尊重し合い、共生・協働していく場を構 築し、一人一人が豊かにその力を発揮できるようにする。



YNU教育·研究最前線

有機合成化学を駆使した光化学や超分子化学の研究に取り組んでいる伊藤 傑准教授と、 トビムシやきのこなどの生態学や分類学の研究を行っている中森 泰三教授をご紹介します。

革新的機能を持つYNU発の分子

大学院工学研究院 伊藤 傑 准教授

機分子は、分子構造の違いに 応じて多種多様な機能を持って おり、医薬品や香料、液晶、色 素などとして、私たちの生活を支えていま す。私たちの研究室は、新しい構造の有機

す。私たちの研究室は、新しい構造の有機 分子を人工的に作り出すことのできる有機 合成化学の研究を行っています。特に、分 子が綺麗に整列した結晶状態で効率よく 光る有機分子を偶然発見したことをきっか けとして、発光する有機分子に関する研究 を進めています。

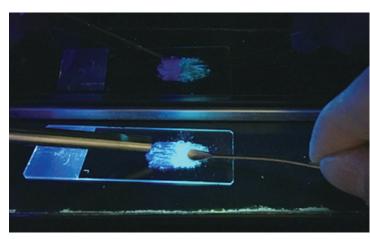
発光現象というのは、テーマパークなどで特殊な光 (ブラックライト)を当てると光る再入場スタンプや、紙幣に使われる偽造防止インク、有機 EL テレビのディスプレイなどに使われている現象です。最近では、外部から刺激を加えると発光特性が変わる

材料を、センサや暗号 通信などへ応用する研 究が盛んに行われてい ます。

私たちの研究室では、 外部刺激により分子の 並び方を変えると発光 特性が変わる分子材料 を開発してきました。例

えば、「こすると発光色が変わり、こするのを 止めると元に戻る有機分子」や、「見た目の 発光は変わらずに、円偏光発光と呼ばれる らせん状の発光のみが変化する有機分子」 などを作り出すことに成功しています。

これらの研究は、私たちの研究室において世界で初めて作り出された分子が、優れた新機能を持つことを明らかとしたもので



こすると発光の色が変わる有機分子結晶

す。有機分子の構造には無限の組合せがあり、今後も革新的機能を持つYNU発の 有機分子を作り出すことで、社会に役立つ 分子を開発したいと考えています。



ITO Suguru 大学院工学研究院 研究分野:有機合成化学、 光化学、超分子化学

きのこと虫の関係

大学院環境情報研究院 中森 泰三 教授

きのこは何のために毒をもっているのでしょうか? 身を守るためだと想像できますが、本当にそうなのか、そうだとしたら何から守っているのかほとんどわかっていません。

私たちの研究室では小さな虫にとっての毒きのこがどの種なのかを調べています。きのこは私たちだけでなく、自然界ではさまざまな種類の小さな虫たちにも食べられます。どんな虫に食べられて、どんな虫に食べられないかを探っていくと、それぞれの虫の種類によってどの種のきのこが毒になるのか違ってくることがわかりました。たとえば、ある種の虫は私たちには猛毒のきのこも食べてしまいますが、私たちには毒ではないある種の食用のきのこを食べ

ようとすると死んでしまい ます。

きのこを食べに来る虫 を調べていると、きのこと 虫のいろいろな関係が 見えてきます。きのこの 繁殖を妨げるもの、助け るもの、きのこを住処と

するもの。きのこはこうしたさまざまな虫た ちに囲まれて、一部を毒で制し、一部を誘 い、したたかに生きています。

この研究を通じて、きのこの不思議な生態や進化の仕組みを学ぶことができます。 そして、森や自然が維持される仕組みに迫ることができます。きのこと虫の関係を知ることで、きっと自然への興味や理解が深ま



さまざまな種類のきのこ

るはずです。ぜひ、一緒に不思議な自然 の世界を探求してみましょう。

NAKAMORI Taizo 大学院環境情報研究院 研究分野: 菌類生態学、土壌動物学



地域貢献に協力した 藝術文化創作サークル『ART×ENT』へ感謝状

海国立大学と保土ケ谷消防署 (横浜市)は2024年1月30日、プロモーションビデオ【保土ケ谷消防署 PR動画「菫ノ誓」】の作成に協力した「藝術文化創作サークル『ART×ENT』」への感謝状贈呈式を開催しました。

ART×ENTは、映画・音楽・文藝・アート作品の制作、上映会や展示会の企画・運営といった活動に取り組んでおり、本PVの作成は、横浜市が掲げる「共創」に基づく事業として、保土ケ谷消防署とART×ENTが共に取り組むことで合意し、実現したものです。

表彰式では、はじめに保土ケ谷消防署の堀田廣公署長より大学と消防署が協力して共創に取り組んだことへの意義についての話があり、その後、堀田署長から『ART×ENT』代表の長友優輝(監督名:永友悠稀)さんに感謝状、同団体の池田光葉さんへ記念品の贈呈が行われました。

表彰式後、『ART×ENT』代表の長 友さんからは制作に当たっての苦労や、 この取り組みが他団体の活動の先駆け となれればという今回の活動への思い を話していただきました。



感謝状と共に記念撮影

横浜市 公式 YouTube チャンネル



なお、プロモーションビデオは横浜市 民への防災意識の啓発、及び消防署の 活動をまとめた作品となっており、横浜 市内で開催される消防イベントでの上映 をはじめ、横浜市の公式 YouTube チャ ンネルでも配信されています。

ダイバーシティ戦略推進本部バリアフリー推進部門、ロゴマークの公募を実施

アフリー推進部門では障がい 学生支援等の活動を広く周知 し、啓蒙・意識の醸成を行っていくた め、理念や活動内容にふさわしいシン ボルとして長く愛されるロゴマークを本 学教職員・学生を対象に公募しました (応募期間:2023年9月27日~2023 年11月30日)。

11点の応募があり、バリアフリー推進 部門ロゴマーク選考委員会(委員長 稲 垣怜史 准教授)による厳正な審査の結 果、1点の最優秀賞作品、2点の優秀賞 作品を選出。

シンプルでありながら、横浜国立大学の組織であること、段差(障壁)を解消し、緩やかな傾斜に変えることで多種多様な人々が学べる場を提供するという目

的が一目でわかる視認性や完成度の高 さが評価され、都市科学部4年(当時) の松本望実さんの作品が、最優秀賞に 選ばれました。



最優秀賞 都市科学部4年 松本望実さん(受賞時)

コンセプト: Barrier-Free の頭文字、BとFを用いて階段とスロープを表現しています。段差というバリアを解消し誰もが建物にアクセスしやすくなるスロープのようにバリアをなくすさまざまな手段が生まれる大学であってほしいという思いで制作しました。

夜のキャンパス紹介動画「横浜国立大学ナイトツアー」 学生広報サポーターが制作&公開

プランティアで本学の広報活動を サポートしてくれる学生広報サポーターが、企画から撮影・編集まで携 わった夜のキャンパスを紹介する動画 「横浜国立大学ナイトツアー」を公式 YouTubeチャンネルで公開しました。

動画には、夜も活動している学生たち へのインタビューとして、定期演奏会に 向けて練習に励む管弦楽団の学生たち や、研究活動のために実験に取り組む 理工学府生が出演。また、ナレーション も放送研究会の学生が担当しています。

これまでの動画でご紹介してきた昼間 の様子とはまた違う、学生ならではの視点で切り取られた夜のキャンパス風景を ぜひお楽しみください。



横浜国立大学 公式 YouTube チャンネル



TOPICS

学生によるデザインで、横浜国立大学×横浜ビール 『ハマノワビール』がリニューアル!

のたび、2019年度に開発した横国 生と横浜ビールとのコラボによる 『ハマノワビール (HAMANOWA BEER)』 をリニューアルしました。

ハマノワビールは「地域をつなぐ一杯」を目指し、学生の地域連携活動の一環で横浜ビールと連携し、2019年に誕生しました。「ハマノワ(HAMA NO WA)」には、「横国の魅力発信や学生と地域のつながりが輪になって広がるように」という思いが込められています。

「自然豊かな大学の風景 |をコンセプト

に、ビールスタイルに合わせたカラーのラベルに仕上げました。横浜国立大学美術サークル「EYEBROWS」のメンバーの協力も得て、何度も打ち合わせを重ね、「横国らしさ」を前面に押し出したデザインにしています。大学に関わりのある皆さんがビールをきっかけにつながれるよう、なじみ深いラベルを目標につくりました。

今回のハマノワビールのリニューアルに あたり、アグリッジプロジェクトをはじめと する多くの横国生が商品づくりに協力しま した。ぜひこのハマノワビールを通じたつ



リニューアルしたハマノワビール

アグリッジプロジェクト ホームページ



ながりの輪が広がればと思っております。 アグリッジプロジェクトの活動やハマノ ワビールの詳細について知りたい方はア グリッジプロジェクトHPをご覧ください。



ESSOTVI ~地域へトビダセ!~



YCV チャンネル 公式 YouTube チャンネル コココク TV

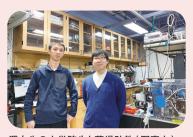
第一弾 地域へトビダセ!

「地域連携シンポジウム 2024」の開催/ 横浜ケーブルビジョンでの放映

年で20周年を迎える「地域課題 実習」は、本学の副専攻プログラム「地域交流科目」における実践科目であり、昨年度においては375名ほどの学生が履修・参画していました。日頃から各地域の皆様と連携して地域課題の解決や活性化活動を行っており、その成果の報告を2024年2月15日に「地域連携シンポジウム」を通じて公開しました。 さらに、地元の横浜ケーブルビジョン (YCV)との連携により、新番組「ヨココクTV」を立ち上げ、「~地域へトビダセ! ~」という副題で、3月16、17日に地域課題実習の選抜プロジェクトにより活動内容が発表・放映されました。この番組の企画・内容は学生有志による「シンポジウム実行委員会」がYCVのスタッフの皆さんと連携して検討してきたものです。

本学の研究推進の取り組み紹介

SHIFT! YNU



滞在先の大学院生と草場助教(写真右)

研究推進機構では2023年度から、研究者が国際的な研究環境で先端研究に触れ研 鑽を積むことを支援する、海外派遣事業を実施しています。

工学研究院の草場哲助教は本事業の支援を受け、米国カリフォルニア工科大学 Blake 研究室に2か月間滞在しました。同研究室は、最先端の分光技術「THz-THz-Raman 2 次元分光法」を開発し、化合物の構造やダイナミクスを理解する研究を行っています。

【草場助教のコメント】世界トップレベルの大学と共同研究を行うことができ、実験技術をは じめ多くのことを学びました。実験方法やデータ解析について、研究室の学生と深い議論 に及ぶこともあります。また、週に一度の「ドーナツアワー」では甘い物を片手に研究者同 士の交流を深めることができました。研究では新しい成果も出ており、今後学会発表や論 文として形にしていきたいと思っています。貴重な機会を得られたことに感謝しています。

インフォメーション



横浜国立大学 創基150周年 · 開学75周年 記念募金事業 ご支援のお願い



横浜国立大学は令和6年に、創基150周年・開学75周年を迎えます。 創基 150 周年を次の世紀に向けた発展の起点とし、「知の統合型大学と して」世界水準の研究大学を目指し、地域と世界の未来を創るため、「横 浜国立大学 創基150周年・開学75周年基金」を設立しました。横浜国

立大学へのご支援ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

初代横浜高等商業学校 (現横浜国立大学) 校長 田尻常雄

募金事業の3つのテーマ



1. 世界水準の研究力で安心安全な社会を実現する 世界水準の研究力により、地球規模の課題を解決し、安心安全な未来を創ります。

2. 新たなまちづくりと未来創生に貢献する 共創の舞台で地域・社会の課題を解決し、新たなまちづくりと未来創生に貢献します。

3. 学生の意欲と熱意に応える

世界で活躍する優れた人材を養成し、またスポーツに、 学業に本気で取り組む学生の意欲と熱意に応えます。

【募集期間】2023年4月~2028年3月31日

【目標額】総額5億円

【周年記念募金事業】

①横浜国立大学 創基150 周年·開学 75 周年記念事業

(YNU新湘南共創キャンパスの創設・台風科学技術研究センター支援・学生支援)

- ②教育学部創基 150 周年記念事業
- ③社会科学系創立100 周年記念事業

【募集金額】個人/1口1万円 団体·法人/1口10万円

※以上の金額にてご寄附のお願いをさせていただいておりますが、

金額にかかわらず、ありがたくご寄附を頂戴いたします。

【ご寄附の方法】横浜国立大学基金 WEB サイトからクレジットカードや ネットバンキング、払込取扱票等にてご寄附いただけます。

【寄附受付の状況】

1,332件/ 83,432,700円

(2024年3月末日現在)

皆さまから多大なるご支 援・ご寄附を賜り、誠に ありがとうございます。

横浜国立大学

創基150周年・開学75周年記念基金



規程額以上のご寄附を賜りました個 人・法人の方のご芳名を記念銘板に刻 銘し、末永く顕彰させていただきます。

横浜国立大学 卒業生・基金担当 (月~金9:00~17:00)

E-mail: ynu.kikin@ynu.ac.jp TEL: 045-339-4443

創基150周年·開学75周年 記念募金事業の詳細はこちらから



卒業生・修了生の皆さまへ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職(進学) 先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。登録データの使用内容は以下のとおりとなります。

- 1. 大学最新情報案内のメールマガジンの配信(月1回程度)※希望者のみ
- 2. 本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
- 3. 大学、校友会、同窓会からの各種お知らせの送付

本趣旨と使用内容をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。



パソコンより下記ページにアクセスしてください。

横浜国大ウェブサイト → 「卒業生」 → 「卒業生・修了生データ登録」







編集·発行 お問い合わせ

横浜国立大学 総務企画部 リレーション推進課 〒240-8501 横浜市保土ケ谷区常盤台79-1 TEL: 045-339-3027 FAX: 045-339-3034 E-mail: press@ynu.ac.jp

